

令和7年度 大仙市議会「市政懇談会」でいただいたご意見・ご要望 一覧表

【当日の回答】

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
1	協和支所	地域おこし協力隊には任期があるが、任期後に移住する事例はあるのか。また、その活動を評価しているのか。	地域おこし協力隊は平成28年度から採用を開始し、令和6年度までに13人を採用しています。そのうち5人が定住に結びついています。多いか少ないかの比較は困難ですが、できるだけ地域に残ってもらいたいと考えています。定住者は自ら事業を起こす、または仲間と事業を行うなどしています。
2	協和支所	水田利活用補助金の単収設定が中山間地の地域性を考慮しておらず、大仙市平均に届かないと補助金が出ない。団地加算はあるが収量基準は改善されず、農水省に相談しても進展がない。コメは合併前の単収に戻した経緯があるのに、大豆は未対応である。農地維持のため、地域ごとの単収設定と指標明示を求める。	協和地域のような条件不利地では単収が低く、地域ごとの基準づくりが必要と考えています。常任委員会でも議論を重ね、市へつなげていきます。国の補助制度も含め区域割の見直しが必要で、現状の区分は実態と合っていません。特に大豆は収量基準が補助対象に影響するため、早期に結論を出せるよう議論を進めたいと考えています。
3	協和支所	淀川中部地区に属する小種地区では、水害時の排水ひ門が1ヵ所しかなく、沼館ひ門は位置が高く排水機能が十分でない。以前、大曲出張所長と自動ポンプ設置の話があったが、進捗はどうか。	樋門改修やポンプ設置は市単独では財源的に困難であり、国・県への強力な要請活動が不可欠です。雄物川右岸・左岸を問わず、地域全体で促進協議会のような組織を作り、一体的な運動を展開することが実現への近道です。
4	協和支所	地域では環境美化や熊対策として草刈りを行っているが、高齢化で作業範囲が縮小している。地域枠予算を活用した助成金はどのような形で使えるのか。	草刈り等の活動は重要ですが、市単独の補助は財政的に厳しいため、国交省や国の交付金から直接団体へ資金が流れる仕組みを作ることが望ましいです。
5	協和支所	小種地区は水害時に孤立する恐れがあり、旧小学校グラウンドを避難場所兼ヘリポートとして整備するよう以前から要望しているが、進展はあるのか。	輪中堤にヘリポートはありますが、現在は流木置き場となっています。国交省等に使用可能化を要望済みであり、仙台の東北地方整備局への要望活動や地元の国会議員への働きかけも行っています。国・県・市が一体となった組織で要望することが効果的であり、地域の協力を得ながら大きな団体として運動を進めたいと考えています。
6	協和支所	協和地域の主な予算に「本庁予算」と記載があるが、これは地域ごとの予算積み上げか。本庁での取りまとめか。協和の予算枠はあるのか。	予算は、前年度や各地域の実績を考慮し、本庁で積み上げたうえで全体予算として計上しています。協和の固定枠はありません。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
7	協和支所	国道沿いの草刈りが年々不十分になり、見通しが悪く交通に支障がある。地域での対応や国の対応はどうなっているか。 水害後に上流から流木や雑木が敷地や水路沿いに生えることがあり、間地部分の処理は個人でできるのか。届け出が必要か。	水害の残置物や敷地や水路沿いの支障物は支所の市民サービス課に相談してはどうでしょうか。西仙北地域では対応してもらっています。 木の伐採も河川の管理者に問い合わせる処理を進められるのが良いと思います。 草刈りについては、国交省湯沢道路河川事務所の予算内で対応しています。堤防草刈り費用増加の影響もあります。国道の整備計画では秋田～和田間の両車線化が進む一方、峰吉川付近は難航しています。必要箇所の草刈りは支所を通じて依頼するのが現実的です。
8	協和支所	淀川地域の河川は、雄物川沿岸は国直轄、下淀川・中淀川は県管理である。諏訪橋から雄物川合流点までは大規模改修と橋の架け替えが完了したが、小種地域の樋門問題や諏訪橋上流の築堤工事が未了。淀川振興会を窓口として毎年要望しているが、他地域の災害対応に予算が回るなど進まない。地元議員のバックアップを求める。	県は権限内での対応に限られるため、市・県・国会議員と連携し、地域で団体を組織して国や仙台へ直接要望するのが有効ではないでしょうか。 上流県管理区間は県が長年消極的だったため、財務省にも出向き国費投入を要望してきました。雄物川中流改修は37年の活動で実現した経緯があり、淀川地区も団体を作り地元主導で継続的に要望すべきと考えます。
9	協和支所	東京都のように狭い地域でも議員数は多い。人口減少しても市の面積は変わらず、山や川、田んぼまで含めた地域全体に目を配るには一定数の議員が必要。面積も考慮し、議員定数を減らさず現状を維持してほしい。	今期、定数検討委員会で検討した結果、前回28人から24人へ削減後の現状をまず検証すべきとの意見が大勢を占め、削減しないことに決まりました。人口減少だけを理由に減らすのではなく、地域ごとの議員数の偏在や活動状況も考慮し、現状の24人を当面維持する方針です。将来的な変更は状況次第ですが、現時点で削減予定はありません。
10	協和支所	子どもが減少しており、学校統合で通学距離が長くなれば、送迎負担はさらに増す。子育て環境整備により移住定住や出生率向上につなげられるのでは。	放課後児童クラブは市全体で約4億円規模の事業で、改善には予算増の可能性があります。令和9年から東部地域で小学校統合が始まり、令和14年には東部の小・中学校が1校ずつになる計画です。通学距離が伸びれば定期バス活用などの対応が必要であり、時代に即した施策を検討していきたいと考えています。
11	協和支所	市議会から県などに要望を上げる場合、既存の地域振興会を通すよりも、新たに団体を作った方が効率的に進むのか。振興会の役割は意味がないのか。	振興会が「だめ」というわけではありません。ただし、特定の目的に特化した団体の方が要望内容を理解してもらいやすく、動きもスムーズになるのではないかと考えます。自身の地域でもそうした団体を立ち上げ、長年活動をしてきました。淀川地区でも同様の形が有効と考えます。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
12	大綱交流館	プレミアム商品券事業について、以前発行していたが、今年度は予算にない。実施基準や、国に対して要望や市として何か検討しているか。	これまでは国の政策として行われており、現在は検討されていません。市単独での実施は厳しいと考えます。今後、国から充当できる予算配分があれば検討されることになると思います。
13	大綱交流館	人口減少対策について、大仙市の魅力発信や移住者誘致の施策があるか。特に西仙北地区の人口減少率が大きい。町内会の高齢化が進み、子供も少なくなっているため、イベントを開催するのも大変で、活動維持が困難な集落も出てきている。また、部活動の送迎負担も聞く。県外流出についてどう考えているか。	魅力発信の面では、地域おこし協力隊による情報発信が進んでおり、特にSNSの活用によって、発信力は格段に向上しています。移住してほしいのは主に子育て世代であるため、「住んでいてうれしい、楽しい」と感じられる暮らしの雰囲気づくりが何より大切だと考えています。子育て世帯が「ここに住みたい」と思えるよう、屋内遊び場の整備も進めており、安心して子育てできる環境づくりに力を入れています。 また、地域コミュニティの維持に向けては、若い世代から高齢者まで、誰もが支え合えるようなコミュニケーションの機会をつくることが重要です。そうした中で、自然と「このまちで暮らしていく意味」を見出してもらえよう、地元に残ることの魅力や価値を丁寧に伝えていきたいと考えています。
14	大綱交流館	昔は口頭で連絡があったが、今はインターネットやスマートフォンに頼りがちで、高齢者には情報が届きにくい。災害時に直接口頭で情報を伝える体制を整備してほしい。	災害時の情報伝達について、デジタル情報へのアクセスが難しい高齢者の現状を理解し、過去の災害対策の経験を踏まえつつ、直接的な情報伝達の重要性を再認識しました。住民への情報伝達のあり方を改めて検討し、直接的な情報提供を強化してまいります。
15	大綱交流館	高齢者の夜間移動手段について、夜間に病院に行くなど緊急ではないが移動が必要な際に、タクシーが対応できない。夜間も対応できるタクシー会社を増やすなどの対応を求める。	交通手段の確保については、タクシー会社の状況や緊急車両の制約を踏まえ、市として、困っている方々へのきめ細やかな対応を検討してまいります。
16	大綱交流館	高齢者中心の地域において、高齢者の生活を支えるための市の取り組みについてどう考えるか。特に、一人暮らしや二世帯の高齢者への相談支援が不足しているのではないかと。地域活性化推進室の活動を強化し、住民との信頼関係構築に努めるべき。また、旧市町村名や集落名など地域名の看板を残し、風化させないでほしい。	高齢者が健康で長生きできるよう、健康長寿のための取り組みを推進しています。一人暮らし世帯への対策にも力を入れており、地域の民生委員などと相談しながら対応してまいります。 また、住民と直接交流することで、信頼関係を構築し、お互いに相談し合える環境を作ることが非常に重要であると認識しています。地域の名称や看板を残すことの重要性を理解しており、関係部署としっかりコミュニケーションを取りながら対応してまいります。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
17	大綱交流館	現在の議員定数24人について、人口減少に応じた明確な基準を設けるべきではないか。大仙市の定数は県内の他市町村と比べて多いのか少ないのか。高齢の議員が多い中で、今後の議会の活性化をどのように図るのか。	大仙市は東京都の1.4倍の面積があり、24人で市民の声を十分に吸い上げられるかはまだ判断基準がありません。議員数が多いほど地域の声が反映されやすい傾向にあると感じます。定数についてさらに検討が必要です。議員の高齢化は課題ですが、年齢構成は有権者の判断に委ねられるものであり、若年だけ、高齢者だけが望ましいというものではないと考えています。
18	大綱交流館	町内会の高齢化により活動維持が困難で、解散も検討されている。市と町内会をどう結び付けるか真剣に考えてほしい。西仙北地区の予算は市の全体予算の約3.8パーセントと少ないが、十分と考えているか。水道、道路、除雪の予算が多く、文化関係の予算が少ないように感じる。	人口減少に伴う、町内会の活動継続については、行政だけで解決できるものではありません。市民全員で取り組むべきであり、市や行政だけではうまくいかないと考えています。予算の地域配分について、他の地域の予算と単純に比較できるものではありません。上下水道などは、全住民にかかる予算であり、特定の地域に偏って配分されるものではないと考えています。
19	大綱交流館	河川敷にある樹木や倒木について、通行障害や増水時の対応についてお願いしたい。	県管理河川に関して、先週、国交相と財務省へ要望活動に行いました。雄物川の築堤の要望のほか、内水面の問題や、県管理河川についても予算増額の要望をしています。
20	大綱交流館	企業誘致の予算で、昨年の予算よりも大幅に下がったのはなぜか。	企業誘致関連予算の減額は、昨年度に「企業団地第2工区」が完成したためです。地元企業への支援、新規誘致は今後も継続していく方針です。
21	花館公民館	市民の声を聞く機会を増やしてほしい。ワールドカフェ方式の市政懇談会は1日だけで夜限定。他は平日開催のため参加者が限られ、さまざまな年齢、職種の方が集まりにくく、子どもの声も反映されにくい。	ワールドカフェ方式は参加者から「回数を増やしてほしい」との声が寄せられるなど好評でした。今後も議会として工夫しながら検討していきます。市政懇談会は重要な取り組みですので、要望に応じて充実させていきたいと考えています。
22	花館公民館	市には多額の借金があるようだが、どのように返済していくか、議会として考えはあるのか。	減らしていかなければいけないのは事実ですが、さまざまな要望に応えるために、バランスよく進めていかなければなりません。市としては、返済金の7割しか借り入れしないことを基本姿勢としています。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
23	花館公民館	下水道が行き届いていないという話を聞く。建物や道路および橋梁(きょうりょう)など、いろいろなものが老朽化してきていて、更新なり補修なりしなければいけない状況だと思う。待ったなしの状況なのではないか。早く手を付けないと、どこかみたいに事故が起きたりするのではないか。	市内には公共施設、インフラがたくさんあり、「公共施設等総合管理計画」を策定し、基本的にはそれをベースに、毎年見直しを行いながら管理しています。
24	花館公民館	小学校はある程度地域に残してあげなければならないと思う。中学校はいくつか集まってリセットするような統合を検討してほしい。部活動のために子どもたちが地域外の学校へ行くことがあるため、ある程度の規模を持った中学校を作り、子どもの進路選択に役立ててほしい。	小規模校の複式学級を避けるため、東部地域で小学校・中学校それぞれ1校にするという構想で現在進めています。
25	花館公民館	オーガニック学校給食を進める会として、市にオーガニックビレッジ宣言を求める陳情書を提出したが、3月定例会で不採択だった。2月に産業建設常任委員会委員のみなさんに自分たちの思いを聞いていただいた。その後、他の委員会の市議の皆さんとどのような話し合いがなされ、共有はしているのか。その後何か準備を進めているのか。進捗状況を聞きたい。	準備が整っていない段階ですが、方向性には賛同します。次期農業振興計画に盛り込む予定です。2月にいただいた資料と当日の勉強会の内容は担当委員会で共有しています。
26	花館公民館	農林部所管の予算で有機農業に関する予算がついていることを聞いた。その内容について知りたい。	活用実績は少ないですが、今後は生産者支援も含めた実効性のある施策を検討中です。
27	花館公民館	5月29日に開催された、大仙市観光物産協会設立10周年記念講演会に参加した。講師の考え方を是非とも(JR東日本担当者の観光資源による未来像)具体化してほしい。さまざまな問題が起きているのは人口が増えないことが1番の根底にあると思う。他の自治体から学ぶ必要がある。大学生のアイデア募集や地元出身者との懇談も有効なのは。市の魅力を発信し続けてほしい。	若者がチャレンジしやすい事業や、他の地域から来ていただくような魅力体験ツアーを実施して頑張っています。人口減少対策に特効薬はなく、小さいことの積み重ねだと考えています。
28	花館公民館	栄町の公民館的役割を担っていた中央児童館が閉鎖され、学童保育施設になった。高齢化で住民の反対が弱かったが、子どもたちの遊び場、災害拠点、地域の集会場所としての児童館の必要性を強く感じる。子どもたちの居場所や災害拠点となる施設を残していくべき。	人口減少や老朽化を理由に子どもたちの施設は集約化されているように感じますが、子どもたちの居場所の確保は重要と認識しています。地域に応じた代替施設の整備例もあり、運営する側と相談しながら進めていきます。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
29	花館公民館	修学旅行で子どもたちが農業体験をして喜んでいました。農業は大仙市の基幹産業。地域の子どもたちにも農業体験の機会を提供し、「農業って楽しい」と感じてもらえるようにすべき。東京の農大付属小学校の事例を参考に、農業体験をし宿泊してもらうなど、少しでも人口増加を期待できるような事業を考えていただきたい。	自然体験・農業交流は有効であり、今後も積極的に支援し、地域資源の活用を促進してまいります。
30	花館公民館	PDCAが機能していない。人口減少の原因を分析していない。チェックからはじまらなければならない。人口が減少しても、できる体質を考えた方がいい。流出の要因を把握し、優先度を付けて対応する必要あり。	議会としてチェック機能を強化していきます。
31	大川西根公民館	鳥居の工業団地(大仙市大曲企業団地)の現状と今後の見込みについて教えてほしい。	1～2期工事は完成済みで、3社が稼働しています。残りの区画についても誘致を進めています。
32	大川西根公民館	道路や排水路の老朽化に対し、修理だけでなく抜本的な対応をお願いしたい。	老朽化は全地域共通の課題であり、緊急性の高い場所から優先的に対応していきたいと考えています。
33	大川西根公民館	少子高齢化による労働力減少問題に対し、どのような対策を講じるのか。	全国的な問題で、市では、若年層の結婚促進や子育て支援など、複数の部署が連携して対策を講じていますが、簡単にはいかない問題です。
34	中仙農村環境改善センター	陳情はどのようなものがあるか。	例えば6月の本会議では、豊かな学びの実現等を求める陳情を採択し、選択的夫婦別姓制度導入を求める陳情は継続審査としました。
35	中仙農村環境改善センター	大曲の花火における観覧席券市民先行販売に議会はどのように関わっているか。	市当局から提案され、議会が承認した形です。
36	中仙農村環境改善センター	子どもの不登校について、市ではどのような認識でどのような対策を行っているか。また、登校再開に向けて、にかほ市の施設のように学習面のサポートを強化できないか。踏み込んだ支援を行ってほしい。また、相談先はどこか。	不登校の子どもは増加しているという認識です。校内の特別教室への登校やカウンセラーの設置、出席扱いとなる民間や教育委員会主催の支援機関を紹介しています。学習面ではオンラインでの支援も行っています。子ども支援課に相談すれば、専門機関へつなげることができます。子ども一人一人に応じた対応を要望していきたいと考えています。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
37	中仙農村環境改善センター	市にはお金がないというが、どれくらい借金があり、増減の状況はどのようになっているのか。	市債は年々減っています。最も多かったのが合併直後で、約1,100億円だったのが、現在約700億円になっています。基金は財政調整基金が今年度末で33億円、その他の目的別基金を含めても約90億円しかありません。借金ゼロ、基金増だけを目指す訳ではありませんが、借金をもう少し減らし、基金を増やすべきと考えています。
38	中仙農村環境改善センター	花火以外に、地域のPRをどのように行っているか、また、費用対効果は算出しているのか。中仙地域には国宝を保有する神社もあるが、氏子も年々減少している。神社仏閣の修繕や御朱印関連の人件費等に補助ができないか。	「地域の魅力発見事業」など、さまざまな取り組みを行っています。神社仏閣への補助については宗教に基づくものであるため、行政は支援することはできません。文化財に対する支援は可能です。水神社の国宝である鏡のレプリカを展示する施設の建設について、市から氏子の方々に提案したこともあります。が、管理が困難であるとして保留となっています。
39	中仙農村環境改善センター	公民館の分館が近々廃止になると聞いた。懇親会などを行う場がなくなる。コミュニティの存続に対するフォローについて聞きたい。	統廃合に当たっては、計画が策定されており、コミュニティの存続について十分に考慮されていくものと考えています。懇親会等に使用できる場は確保されるべきですので、配慮されるよう見届けたいと思います。
40	中仙農村環境改善センター	コミュニティスクールの実施について、言葉が先行し、内容を理解している人が少ない印象。また、部活動の地域移行は先行したが、進んでないと聞いている。地域住民の関わり方など、もう少し情報発信をしてほしい。	コミュニティスクールという言葉になりましたが、清水の神楽、中仙のささら、桜守など、地域で以前から行われている活動であり、これまでの活動を継承し、プラスアルファしていくことと解釈しています。部活動の地域移行については、中仙地域の中学校でも、民間の指導者が監督の先生をサポートする立場として指導に携わっています。子どもたちの状況に応じて対応している状況です。
41	中仙農村環境改善センター	以前も要望したが、中仙イオン付近の丁字路は大型ダンプの出入りが多く危険である。付近の草刈りも自治会の負担で対応している。	状況を把握しており、建設部と協議します。大型ダンプの出入口変更も含め、現場を見ながら対応を検討します。
42	中仙農村環境改善センター	スクールバスが廃止され、市保有のバスが老人クラブや婦人会で使いづらくなった。研修や視察に補助を行うことはできないか。	研修・活動する際に交通手段がないことは把握していますので、地域の声として、市に対して、働き掛けや提案を行っていきます。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
43	藤木公民館	藤木地区の太陽光発電を行っている企業で銅線が盗難に遭ったと聞いている。市の太陽光発電施設は大丈夫か。	西仙北IC近くの太陽光発電設備は市で管理を行っており、現在、問題はありません。
44	藤木公民館	国の事業で整備した川港親水公園内の池のポンプが壊れ悪臭がしている。市から国に対して整備の要望をしてはどうか。	国会議員にも要望しています。委員会で取り上げ、できるだけ早く秋頃までは対応を考えたいと思います。
45	藤木公民館	小・中学校の児童数が減少している。学校統合の動きはないか。	東部地区では10年前から検討され、現在説明会が行われています。大曲地区についても計画されており、大曲南地域の状況は教育委員会でも把握しています。丁寧に議論をしていくべきと考えています。
46	藤木公民館	人口減少問題について、議会ではどのような考えを持っているか。企業誘致に注力すべきと考える。	東京並みの賃金を払える企業はなかなかないことは理解していますが、まずは自分の子どもたちに帰ってきてもらうことではないでしょうか。子育てに対する支援は大仙市は県内でもトップであり、市でも努力しているという認識です。
47	藤木公民館	免許を返納すると市街地に出る手段がなくなる。5,000円の交通費助成はあるが、角間川藤木地域で1日1本でも循環バスを運行できないか。	ニーズ調査を委員会でも取り上げます。乗り合いタクシーの事前登録もニーズ把握に有効です。市街地から遠い地域への補助額引き上げなども考えられます。
48	さくまろ館	消防団員から、大会に向けた練習時間が長く負担になり、新しい人が入団にくいという声もある。山形県では大会を中止した例もあると聞けが、大仙市ではどのような対応が検討されているのか。	団員確保と技術向上の両立が課題です。大会が入団の妨げになる面もあるため、優先すべき事項や両立の方法を踏まえ、検討してまいります。
49	さくまろ館	排水路の危険箇所について、内水氾濫の状況が年に数回あり、排水路の護岸が崩れかかっている。排水路の管轄が不明という問題もあり、危険な状況なので市の担当に見てもらい、適切な対応を教えてほしい。また、内水氾濫の対策として、ポンプの設置を要望する。	内水氾濫について状況把握のために担当者を派遣するように市の方へ伝えます。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
50	さくまろ館	空き家が危険な状態。住民が申請しても改善されず困っている。	総合防災課で危険度の調査をして持ち主との協議が始まります。空き家は基本的に所有者の財産であるため、危険度に応じて助言、指導を行います。「危険空き家」と認定された場合、解体費用の補助制度があり、集落の代表者が申請することもできます。申請期間は6月29日ですが、これは予算の区切りのためのもので、引き続き申請を受け付けています。
51	さくまろ館	組合管理の簡易水道で、漏水が多発しており、補助制度の内容や申請方法について、教えてほしい。	維持管理、検査費用などに対する補助制度があるため、担当部署と直接話し合い、対応を検討していただきたいです。
52	さくまろ館	学校統合の話が出ているが、統合場所など、進捗を教えてほしい。	令和14年まで東部で小学校、中学校をそれぞれ1校に統合する方針です。具体的な候補地はまだ決まっていません。必要とされる敷地面積は6～10ヘクタールです。
53	さくまろ館	空き家の解体後の残材放置について、がれきがそのまま放置されていて危険である。通学路に接しているので、市に撤去してほしい。	その場所については、市から再三、所有者に片づけを依頼しています。飛散防止のため、ネットを掛けたりしていますが、今後も引き続き対応を促していく意向です。
54	さくまろ館	学校統合が放課後児童クラブに与える影響について、どのように捉えているのか。	多くの放課後児童クラブが学校の空き教室などを利用しているため、学校統合は大きな課題であると認識しています。今後しっかりと検討していく必要があると考えています。
55	おおたコミュニティプラザ	市議会や会合を夜間や土日に開催する予定はあるか。若い世代や多忙な者の参加を促し、多様な意見を取り入れることにつながるのではないか。	議会の夜間・土日開催について、議会改革の委員会で検討しています。今年度の市政懇談会では、一部会場で試験的に土曜午後6時から行い、若い世代の参加もあり、好評でした。今後も、こうした方式を広めていきたいと考えています。
56	おおたコミュニティプラザ	熊対策として導入される「IC技術」はどのようなものか。	クマがわなにかかると猟友会の方々の携帯電話に通知が届くシステムで、昨年度に試験導入され、今年度から全地域へ導入されています。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
57	おおたコミュニティプラザ	農業にもっと力を入れるべき。花火大会は年1回で十分であり、年間どれくらいの税金が使われているのか。	花火大会の費用を市が全額負担しているわけではなく、協議会に助成しています。職員協力の人件費等も含まれるため金額を特定することは難しいですが、花火会社が地元雇用に貢献している面もあります。
58	おおたコミュニティプラザ	地域の祭りに寄付が集まりにくくなっている。祭りの重要な要素である花火に、市からの助成金や花火そのものの提供といった支援を検討してほしい。	ご意見を担当委員会に持ち帰り、経済産業部へ要望として伝えます。
59	おおたコミュニティプラザ	農地中間管理機構関連農地整備事業のような農地集約をしている動きはあるか。	中仙地域の豊岡南部地区が来年度の採択を目指しています。その他、協和地域や太田地域でも一部動きがみられます。
60	おおたコミュニティプラザ	空き家対策の予算はどのように使われているのか。代執行(市が解体し、所有者から費用を徴収する)は行うのか。	風でトタンが飛ぶなど危険な空き家について、所有者や近隣住民による解体等の助成金として使われています。代執行は、費用徴収の困難さや、所有者が市による代執行を期待してしまう懸念があるため、原則行いません。
61	おおたコミュニティプラザ	真木関根の頭首工が老朽化し、大規模改修が必要となる。水田だけでなく、防火用、生活、消雪など多岐に利用されているが、法人格のない管理団体だけでの対応は困難であり、行政の支援と議会の理解を要望する。	産業建設常任委員会内でこの問題を共有していますが、改めて委員会に持ち帰り、全議員の理解を得られるよう進めていきます。
62	おおたコミュニティプラザ	今後の学校統合を踏まえ、学校跡地の他地域での活用事例を教えてください。	学校跡地は、地域コミュニティ施設や運動場として活用されている例があります。今後、東部地区での小学校統合が進むことから、教育委員会と協議をしていきます。
63	おおたコミュニティプラザ	世界少年野球大会や天皇杯野球大会の開催を契機に、継続的な取り組みを行う考えはあるのか。	大会後の継続的な事業は予定していませんが、500歳野球大会など様々な野球関連イベントを通じ、子供から大人まで野球の面白さを発信し続けるためのイベントであると認識しています。
64	おおたコミュニティプラザ	プラスチック資源の分別回収について、既存の袋を利用できるようにし、市民の負担を軽減してほしい。	一般質問でも同様の指摘を行いました。が、運搬作業の都合や、市民が判断に迷わないよう、引き続き専用袋とするとのことでした。今後も継続されていく事業であるため、要望として担当課に伝え、協議を重ねていきます。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
65	南外コミュニティセンター	大仙市のデジタル化(DX)推進について。公共施設予約サービス導入やスマホ決済などが進んでいるが、高齢者のインターネット利用率が低いことを心配している。パソコンの導入やインターネット環境の整備など、様々な助成が必要だと感じる。例えばパソコン教室の開催やパソコン教室へ通う方への助成をすとか検討していただきたい。住民の利便性向上につなげる必要があると思う。	市役所に来なくてもデジタルで申請・手続きができるよう進めています。高齢者のデジタル化推進は重要ですが、詐欺対策も考慮し慎重に進める必要があります。市役所内部でもDX人材育成プロジェクト事業として、部署関係なく若手職員が集まり検討会議を実施しています。デジタル推進関連の国の交付金もありますが、全額ではありません。市の持ち出しもあることなので慎重に進めていかなければならないと思います。
66	南外コミュニティセンター	財政が厳しい中、南檜岡コミュニティセンターを改築していただいたことを感謝している。週1回のシニア塾に積極的に参加している。東部、西部、中央3箇所で行っていて、良い企画だと思う。健康運動指導士を迎え筋トレ、ストレッチ、リズム体操を行っており、長く続けてほしい。	南檜岡コミュニティセンターは素晴らしい建物ですが、隣接地は未整備の状態であり、ゲートボールなどができるような環境整備に努めたいと考えています。健康運動指導士による体操教室などは、継続要望もきていることから、全域で推進していく方針です。
67	南外コミュニティセンター	NPO法人「南外さいかい市」による高齢者無料送迎サービス(市中心部の病院への送迎と診察待ち時間中の野菜販売)について、良い取り組みなので、現在の年間30万円の助成金を増額すれば、週1回以上の実施も可能ではないか。	非常に良い取り組みと認識しています。5月の補正予算で「地域交通対策事業」として実施されており、今後の施策は実績を見て検討します。南外地域はモデル事業であるため、将来的には他地域への拡大も検討してまいります。
68	南外コミュニティセンター	熊対策の根本的な改善策として、森林環境譲与税等を活用し、山に熊がとどまれるような環境(広葉樹・針葉樹混合林化)を整備してほしい。自分もここが好きで移住してきた者として、大仙市の自然や人口対策を頑張っていたいただきたい。	人命尊重と熊の保護の両立が理想ですが、現状は人命尊重が最優先です。広葉樹・針葉樹混合林化は森林整備事業の一環として進めています。効果が出るには時間がかかります。それまでは捕獲や駆除も必要となることをご理解ください。
69	南外コミュニティセンター	旧南外不燃物処理埋立地(矢立峠付近)の年間経費として141万円かかっている。もったいない。埋立地をどこかに移動できないか。	地域住民の皆さまには大変ご迷惑をおかけしていると思っています。大仙市だけでなく、美郷町、仙北市と構成する大仙美郷環境事業組合全体で進めるべき難しい問題です。長期的な視点で、関係者で協議し、次の処分場を検討していきます。市当局へも伝えまします。
70	南外コミュニティセンター	空き家対策について、市による補助事業や解体支援が広がっていることに感謝する。健康まちづくりプロジェクトについて、市が力を入れていることを評価する。	引き続き取り組んでいきたいと思っています。
71	南外コミュニティセンター	少子高齢化対策として、出生から結婚するまでの一環した対策が必要だと思う。他自治体とも連携し、取り組んでいただきたい。	南外地域の昨年度の出生数は1けた代です。皆さんの様々なご縁をいかして、人口減少対策にお力を貸していただきたいと思っています。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
72	南外コミュニティセンター	旧南外西小学校の今後の対策について伺う。	市でも悩んでいます。公共施設(学校含む)の解体は計画的に進めているが、全ては追いついていない。使える部分は活用し、不要な部分は解体する方針だが、地元と相談しながら慎重に進めていかなければならない。今後小中学校の統廃合も進んでくる。皆さん力を借りてすすめていきたい。
73	神岡農村環境改善センター	定例会と常任委員会の流れについて教えていただきたい。また、定例会の日程や傍聴の可否についても知りたい。	定例会は年4回、3月、6月、9月、12月に開催しています。議案は本会議で上程され、所管の常任委員会に付託して審査する流れになります。日程は議会だより、地元紙の県南版で告知しています。傍聴は氏名記載の上、誰でも可能です。
74	神岡農村環境改善センター	関東圏などへの移住促進PRはどのように行っているのか。他自治体との差別化はあるのか。	大仙市にゆかりのある人には、市民を通じて情報を届けたり、公式LINEや地域おこし協力隊のSNSで発信したりしています。ゆかりのない人には、まず市を訪れてもらい、関係人口になってもらうことを重視しています。補助金での誘致競争は避けています。
75	神岡農村環境改善センター	神岡にも移住者があったが、豪雪を知らずに帰った例がある。土地提供だけでなく、融雪など雪対策を含めた生活環境の整備が必要ではないか。現状の取り組みは一般的すぎ、もっと踏み込むべきではないか。	人口減少は最大の課題であり、雇用や子育て、教育環境など総合的な対応が必要です。移住者は地域の受け入れが不十分だと定着が難しいと思います。神岡は出生数が年10人程度、西仙北高の入学者も7人と厳しく、進学や部活動にも影響が出ています。地域と行政が課題を共有し、深く話し合う場を持つことが重要だと思います。
76	神岡農村環境改善センター	民生委員であるが、毎年水害があり、一人暮らし高齢者の見守りや支援で夜も眠れない日がある。24時間体制で月20日以上稼働し、報酬は少なく交通費をはじめとした自己負担が多く発生する。なり手不足が深刻で頼まれてやっている。議員には現場の声を直接聞き、PTAなど若い世代が集まる場にも参加してほしい。また、昨年、青柳議員にも訪問を呼びかけたが、一度も来なかった。	昨年は日程調整が不十分で伺えず申し訳ありませんでした。いただいたお話は直接伺って、対応させていただきます。
77	神岡農村環境改善センター	民生委員の方々も来ているが、日本では無償ボランティアが普通になっている。有償が普通の国もある。議員活動日数96日を時給換算すると高額だが、365日活動している議員もいる。	資料に記載している日数は議会関係の活動のみで、地域行事などは含まれていません。議員はお金に換算できない活動も多くしています。

No.	開催場所等	いただいたご意見	当日の回答
78	神岡農村環境改善センター	後藤議員が議長になった際に、取り組みたいことを新聞記事に記載されていたが、それについてはどうなったのか。	市民の声を広く聞き、政策に反映する仕組み作りを目指しました。市政懇談会や集まりに出向き、意見を聞き積み上げて政策化する体制を作りたかったのですが、任期や議長交代の慣例もあり、十分にはできませんでした。
79	神岡農村環境改善センター	人口減少や地方交付税減少に伴い、議員定数は選挙前に削減すべき。他市は既に実施している。 (回答を受けて)地域代表が必要であるというのであれば、地域代表と全市代表の併用制度も検討した方がいいのでは。	合併後、30人から28人、24人と段階的に削減してきました。広い市域の声を拾うため、必ずしも少ない方がよいとは限りません。地域代表を望む声もあり、地域の声を拾う観点からも検討が必要と考えます。
80	神岡農村環境改善センター	B&G海洋センター跡地の屋内遊び場計画について、ターゲット層が不明確で、市場調査も不十分。九州や山形などの事例も参考にすべき。	令和9年の完成予定で、全天候型で安全安心に遊べる施設を整備する予定です。嶽の湯周辺はアクセスも良く、県内外から利用が見込めます。 施設計画前にアンケートを実施し、中央公園イベントでも来場者調査を行っています。業者任せではなく、一定のマーケティングを行っています。
81	神岡農村環境改善センター	500歳野球大会会場の神岡球場に電光掲示板を設置してほしい。	神岡球場は築40年で老朽化しています。少年野球や500歳野球発祥の地であり、改修要望は市長にも7～8年前から出していますが、財源確保が課題となっています。市内他球場も含め統廃合の議論がありますが、神岡球場の重要性は認識していますので、整備実現に向けて声を上げてほしいと思います。
82	神岡農村環境改善センター	恵まれない家庭の子供に無料で勉強を教えるなど、高齢者が教育に関わる場を作りたい。どこに相談すればよいか。	経済的困難を抱える家庭や子どもの支援を行うには、活動内容を具体化し、教育委員会や福祉部局に相談するのが望ましいと思います。放課後児童クラブは無料利用枠もあり、多くの子どもが利用しています。
83	神岡農村環境改善センター	(経済的困難を抱える家庭や子どもを支援する活動について)児童クラブは民間委託であり、提案しても良い返事は得られなかった。	不登校対応施設などでのボランティア参加は可能性があるため紹介できます。また、市施設を活用した単発の無料学習支援も検討できます。実現のために議員として協力する用意があります。

【行政へ伝えることとしたご意見等】

No.	開催場所等	いただいたご意見
1	協和支所	協和地域の放課後児童クラブは小学校の教室で活動しており、保護者が必ず迎えに行く必要がある。学校まで20分から30分かかる場合もあり、負担が大きい。親の同意のもと、定期バスで帰宅させる仕組みを導入できないか。共働き世帯の負担軽減や移住定住促進にもつながる施策として検討してほしい。
2	大綱交流館	空き家増加による防犯・環境悪化が問題。自治会の活動予算では個人の草刈りや伐採はできないが、地域全体で使える予算措置はできないか。所有者が不明な空き家への対応も困難。
3	花館公民館	図書館ボランティアを続けているが、大曲小学校の図書室はバーコード管理がなく蔵書数も不明で、専属の司書もいない。先生は多忙で管理が難しく、本を増やすだけでなく、ソフト面や管理にも予算を充ててほしい。
4	花館公民館	大曲小学校の老朽化した施設(セントラルヒーティング、体育館トイレ)の修理・更新を求める。30年程前に付設されており、壊れるのを待っているのではなく、防災拠点でもあるため、機械の更新を求める。
5	大川西根公民館	農地の受け手を農業公社に相談したところ、自分で探して来るようにとのことだった。受け手を斡旋(あっせん)する仕組みがあればよいのでは。
6	大川西根公民館	個人情報保護と地域活動の実態との間に矛盾を感じる。敬老会助成金の申請書に、関係する高齢者の住所の番地や生年月日まで記載するよう求められる。活動する側が利用しやすいようにしてほしい。
7	大川西根公民館	広報紙に二次元コードが掲載されていること自体は良い取り組みであるが、例えば休日の歯科診療所の情報が二次元コードだけでは分かりづらい。重要な情報は文字で伝えてほしい。
8	大川西根公民館	農地の賃借料について、農地の等級はあるにせよ、地域ごとに賃借料がばらばらなのはなぜなのか。
9	大川西根公民館	万博でも喫煙所を設けている。大仙市に約6億円のたばこ税が入るのだから、敷地内禁煙でなく、喫煙所を設置してほしい。
10	藤木公民館	アメシロの防除を来年から市がやめるという話だがどのようなになるのか。川港親水公園にも桜の木が多く、500歳野球大会の際にアメシロが落ち、苦情が来たことがある。
11	藤木公民館	500歳野球でソーラーを使ったが、マウンドがなく、使いづらい。もっと良いグラウンドがあると思う。
12	藤木公民館	今年は一本木会館の広場の草刈りが行われず、入れなくなった。市ではやらなくなったのか。
13	さくまろ館	消防団の団員確保が年々難しくなっているということで、消防大会をもっと市民に公開して、多くの方に見てもらうような工夫をすることで、特に子どもたちに消防団の魅力を伝え、将来の入団につなげるような取り組みはできないのか。
14	さくまろ館	バイオ炭を入れて化学肥料を半分にする実証実験をしているが、市からのさらなる協力をお願いしたい。

No.	開催場所等	いただいたご意見
15	さくまろ館	敬老会について、現状の制度では1団体当たり50人以上で10万円の補助金を交付する制度だが、参加者が増えると1人当たりの単価が下がってしまうので、1人当たり3,000円程度の予算を確保できるような制度に見直してほしい。
16	さくまろ館	放課後児童クラブについて、利用する人数が増えているので、増築してほしい。
17	おおたコミュニティプラザ	監視カメラとAI技術を活用し、熊などの害獣を早期に発見できるシステムの導入も有効ではないか。
18	おおたコミュニティプラザ	リニューアルされた中里温泉の外構がおろそかになっており、花を植えるなどして美化してほしい。
19	南外コミュニティセンター	介護予防拠点施設「ぬくもりの郷」の現状と今後について伺う。利用価値の高い施設だと思っているが、標識や案内板が無いことを残念に思っている。既存の案内板に追記することはできないのか。また、「ぬくもりの郷」の事務室も空いている状態である。もったいない。もっと活用させるべきだと思う。今後の活用計画について伺う。
20	南外コミュニティセンター	桜公園の管理について。以前はきれいに整備されていたが、最近は手入れが行き届かず、雑草が生い茂り、残念に思っている。管理を改善してほしい。
21	南外コミュニティセンター	熊の出没により学校から緊急メールが入ると、子供たちの安全のため、学校へ迎えに来よう要請されるが、急な依頼であるため、対応に苦慮している。南外小学校にはバスが常設されているため、急な保護者への送迎要請があった場合は、常設バスでの対応をしていただきたい。
22	南外コミュニティセンター	水に関して。PFOS/PFASやネオニコチノイドなどの化学物質による地下水汚染を心配している。企業誘致で化学物質を使用する企業の誘致は慎重に行い、水質汚濁のない企業を誘致していただきたい。大仙市でもヨーロッパ基準での水質調査および健康影響(特に不妊など)を考慮した対策を検討してほしい。
23	南外コミュニティセンター	水道の運用利権について。海外企業に運用権が渡ると高額料金や水取得の制限などが発生する事例があるため、大仙市で水道の運用権が安易に外資に渡らないよう、慎重な対応を求める。
24	南外コミュニティセンター	風力発電について。低周波音による健康被害、山林破壊(熊の出没増、土砂崩れ)、自然景観の破壊が懸念されるため、巨大風車の乱立を避けるよう慎重な検討を求める。
25	南外コミュニティセンター	給食提供について。オーガニック給食や身体に優しいものにしてほしい。子どもたちだけでなく、作りたいのに作れない、売り先が分からない農家のために市が支援することにより、取り組めるのではないか。
26	南外コミュニティセンター	自衛隊への個人情報提供について。希望しない人がホームページで拒否できるよう、大都市のように選択肢を設けてほしい。

No.	開催場所等	いただいたご意見
27	神岡農村環境改善センター	ライブ119の件は大仙市では進まず、横手市が予算を付けて実施した。自分は横手出身で、議員に話したらすぐ対応してもらえた。大仙市はもっと早く動くと思っていたが残念。
28	神岡農村環境改善センター	のりのりきっぷの額が7,000円から5,000円に減額されたが、今後なくなるのではないかと不安である。継続してほしい。
29	神岡農村環境改善センター	大曲庁舎の土地が借地で、借地料を払っていると聞いた。市有施設で借地料を払うのはおかしい。買うなら買うなど、将来に禍根を残さない対応をしてほしい。